緒　言

「ワクチン疫学研究班（略称）」が発足した 2002 年当時は、世界的にも “Vaccine Epidemiology” という言葉がまだ一般的ではありませんでした。とりわけインフルエンザワクチンの有効性を巡る混迷から抜け出したばかりの我が国では、ワクチンの有効性や安全性の研究は、「小児科医を中心とする臨床家や、ウイルス学者を中心とする微生物学者が取り組む専門領域」との考え方が主流でした。

当初、研究班では対象をインフルエンザワクチンに特化していましたが、その後、肺炎球菌ワクチン、百日咳ワクチン、ポリオワクチン、ロタウイルスワクチンなどにも対象を拡げました。これと並行して、「一般薬剤と同様に、ワクチンの有効性や安全性は、ヒト集団から得たデータに基づいて判断しなければならない」との理解が徐々に深まり、疫学者の見解が重視される機会も増えてきたようです。

研究班発足以来、3 年一期として第 3 期目（2008-10 年度）には、新型インフルエンザのパンデミックが 2009 年に起こりました。この時、研究班の総力を挙げて新型インフルエンザワクチンの有効性や免疫原性の研究を行い、多くの知見を国際誌に発表しました。そして現在は第 7 期目（2020-22 年度）ですが、今まさに COVID-19 パンデミックの真っ只中にあり、間もなく新型コロナウイルスワクチンの接種が始まろうとしています。COVID-19 による疾病負荷の軽減、および COVID-19 パンデミックの終息に貢献することは当研究班の使命であり、全力を挙げて新型コロナウイルスワクチンの研究に取り組まねばなりません。

ヒト集団を対象とする研究には多くの困難を伴いますが、その困難を克服して達成した成果こそが、“Vaccine Epidemiology” いう研究分野について理解を得るための、最も説得力ある言葉になると考えます。

令和 3 年 2 月

廣田 良夫

〇参考

【第 1 期：2002-04（平 14-16）年度】

インフルエンザ予防接種の EBM に基づく政策評価に関する研究

【第 2 期：2005-07（平 17-19）年度】

インフルエンザをはじめとした、各種予防接種の政策評価に関する分析疫学研究

【第 3 期：2008-10（平 20-22）年度】

インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究

【第 4 期：2011-13（平 23-25）年度】

予防接種に関するワクチンの有効性・安全性等についての分析疫学研究

【第 5 期：2014-16（平 26-28）年度】

ワクチンの有効性・安全性評価と VPD 対策への適用に関する分析疫学研究

【第 6 期：2017-19（平 29-31）年度】

ワクチンの有効性・安全性の臨床評価と VPD の疾病負荷に関する疫学研究

【第 7 期：2020-22（令 2-4）年度】

ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究